

日语研究

论文精选

《日语研究》编委会 编



創于1897

商務印書館
The Commercial Press

日语研究论文精选

本书所收论文精选于《日语研究》第1-10辑，可谓近年来中日学者在日语研究方面的成果荟萃，内容涵盖日语语法学、词汇学、语用学、认知语言学、语料库语言学、日语教学、日语翻译等研究领域，具有重要的参考价值。

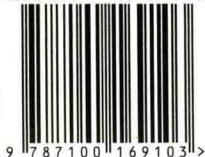
——《日语研究》编委会

<http://www.cp.com.cn>



商务印书馆官方微信

ISBN 978-7-100-16910-3



定价: 128.00 元

日语研究

论文精选

《日语研究》编委会 编



2019年·北京

图书在版编目 (CIP) 数据

日语研究论文精选/《日语研究》编委会编. —北京:
商务印书馆, 2019

ISBN 978-7-100-16910-3

I. ①日… II. ①日… III. ①日语—研究—文集
IV. ①H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2018)第 274060 号

权利保留, 侵权必究。

本书出版获得陕西师范大学资助

日语研究论文精选

《日语研究》编委会 编

商务印书馆出版

(北京王府井大街36号 邮政编码100710)

商务印书馆发行

北京艺辉伊航图文有限公司印刷

ISBN 978-7-100-16910-3

2019年5月第1版 开本 710×1000 1/16

2019年5月北京第1次印刷 印张 47

定价: 128.00 元

日语研究论文精选

主 编： 彭广陆（陕西师范大学）

副 主 编： 徐一平（北京外国语大学）

林 璋（福建师范大学）

续三义（东洋大学）

杨凯荣（东京大学）

主编助理： 周 彤（北京外国语大学）

编 委：

曹大峰（北京外国语大学）

陈访泽（澳门大学）

陈俊森（华中科技大学）

陈力卫（成城大学）

戴宝玉（上海外国语大学）

丁 锋（大东文化大学）

冯建新（商务印书馆）

冯良珍（山西大学）

高 宁（华东师范大学）

李长波（同志社大学）

李庆祥（中国海洋大学）

马朝红（商务印书馆）

马小兵（北京大学）

潘 钧（北京大学）

彭 飞（京都外国语大学）

皮细庚（上海外国语大学）

沈国威（关西大学）

宋协毅（大连大学）

苏文郎（台湾政治大学）

王亚新（东洋大学）

吴大纲（上海外国语大学）

吴 侃（同济大学）

修 刚（天津外国语大学）

徐敏民（华东师范大学）

许宗华（洛阳外国语学院）

杨 达（早稻田大学）

杨 玲（北京第二外国语学院）

姚莉萍（对外经济贸易大学）

于 康（关西学院大学）

于日平（北京外国语大学）

俞晓明（北京语言大学）

翟东娜（北京师范大学）

张麟声（大阪府立大学）

张佩霞（湖南大学）

张 威 (中国人民大学)

朱春跃 (神戸大学)

张岩红 (大连外国语大学)

朱京伟 (北京外国语大学)

赵 刚 (西安交通大学)

赵华敏 (北京大学)

(以上按汉语拼音音序排列)

序

《日语研究》作为我国第一个专门刊登日语研究论文的集刊创刊于2003年，迄今已经出版10辑，历时15载。我们出版这个刊物的初衷是为国内的日语学界提供一个发表研究成果的平台，促进我国的日语研究健康地发展。在毫无经济效益可言的情况下，商务印书馆毅然决定出版本刊，对我们是一个莫大的支持和鼓舞。在此我们要向玉成《日语研究》出版发行的时任商务印书馆党委书记的孟传良先生表示衷心的感谢。

为了将《日语研究》办成高水平、有特色的刊物，我们组成了由国内和旅日学者中有代表性的专家构成的编委会，在办刊过程中严把质量关，坚持双向匿名审稿，以审稿结果为刊用与否的唯一依据，杜绝人情稿件。同时，为了让读者随时掌握日语研究的最新动态并能接触到日语研究的学术前沿，每辑都刊登1—2篇日本著名学者的赐稿；为了加强学术性，每辑都坚持刊登针对国内学者出版的日语研究专著的书评，这两点是国内同类刊物所不具备的突出特点。在国内和日本同仁的大力支持下，在全体编委和商务印书馆责任编辑的不懈努力下，本刊获得了国内日语界的一致好评，成为展现我国日语研究高水平成果的重要阵地。从第10辑起，本刊采取了新的举措：除了改组编辑委员会，增设了学术顾问以外，还增加了专辑的版块，邀请该领域有学术影响力的学者为专辑撰稿；此外还开设了“学者介绍”这个栏目，每辑介绍两名在日语研究方面做出突出贡献的学者（其中一名为国内学者，一名为旅日华人学者）。我们相信《日语研究》在各方面的大力支持下将会办得更加出色，为我国的日语研究继续贡献绵薄之力。

为了便于读者们更好地借鉴已在《日语研究》上发表过的学术成果，由担任（过）《日语研究》主编和副主编的5人（亦即本书的主编和副主编）负责从第1—10辑刊登的论文中遴选出42篇有代表性的论文汇集成《日语研究论文精选》，由商务印书馆出版发行，以飨广大读者。我们在遴选时遵

循如下原则：每位作者入选论文不超过1篇；兼顾不同的研究领域，适当照顾作者的年龄层。客观地说，未入选的论文并不逊色，因篇幅有限，只得割爱。为了便于读者们检索，我们在卷末附有《日语研究》第1—10辑的目录汇总。

必须指出，如果没有陕西师范大学给予的出版资助，本书无法问世，在此特向陕西师范大学表示由衷的谢忱。尤其是本书的主编助理周彤在本书的编辑过程中为稿件的扫描和校对花费了大量的精力和心血，责任编辑马朝红女士也尽职尽责，谨此致谢。

最后，衷心地感谢日语界同仁10余年来对《日语研究》的厚爱和鼎力相助，感谢为《日语研究》赐稿的全体作者，感谢为《日语研究》付出辛勤劳动的商务印书馆先后两任责任编辑冯建新女士和马朝红女士，感谢长为《日语研究》义务审稿的全体编委和审稿专家，感谢为《日语研究》无私奉献的先后二位主编助理潘钧和周彤。

《日语研究》将始终与国内日语界同仁相伴而行。

彭广陆

2017年9月16日

目 录

语法研究

- カテゴリー的多義の比較 宮島達夫 (1)
- 現代日本語における漢語の品詞性 村木新次郎 (20)
- とりたて詞「も」の作用域と否定 沼田善子 (49)
- 日本語名詞の語彙-文法的下位種へのスケッチ 仁田義雄 (68)
- 词汇性复合动词的新体系
- 其理论及应用意义 影山太郎 (著) 王轶群 (译) (92)
- 「～てやる」的语义扩展机制与论元角色 于 康 (127)
- 「Vテクレル」的结构和意义 杨 玲 (146)
- 「ようだ」「らしい」とテンス 工藤真由美 (166)
- 「てしまう」的语法化分析 林 璋 (185)
- 语法化与日语的复合助词研究 戴宝玉 (196)
- 试论「ね」的用法 张 兴 徐一平 (209)
- 试论「デハナイカ」在自然会话中的表达功能 张惠芳 (227)
- 日语直接示证的类型学视角 杨文江 (239)
- 日本語の恩恵構文をめぐって
- 構文意味論の観点から—— 益岡隆志 (254)
- 外の関係における制限的／非制限的連体修飾節 橋本修 (270)
- 日语的自指与转指初探 黄毅燕 (283)
- 言語の対照研究の方法 井上優 (296)
- 关于“表达语法、命题篇”基本框架的设想
- 兼谈汉日对比研究的一种思路 张麟声 (310)

2 日语研究论文精选

表全称义句式的中日对比研究

——论「誰でも+VP」、「誰もが+VP」与“谁+都+

VP”、“个个+(都)+VP”的差异 杨凯荣 (327)

日汉韩处所成分的对象化与语言的主观化 朴贞姬 (345)

非宾格动词结构在日汉语中的表现 王亚新 (359)

日汉语“位移事件”表达式的对比研究 姚艳玲 (378)

古代日本語の「思ふ」の条件形における主語の

交代現象 鈴木泰 (392)

上代日语与先秦汉语指示体系的比较研究 李长波 (413)

语言过程说反思 许宗华 (438)

文字、词汇研究

汉字的字义及其获得 沈国威 (455)

从日语外来语的「言い換え」看「漢語」的造词功能 朱京伟 (470)

《汉语大词典》在处理日语借词上的几个问题 陈力卫 (488)

语用学、认知语言学研究

文法とコミュニケーションにおける知識と体験 定延利之 (496)

日本人のポライトネス 陣内正敬 (510)

礼貌与日语的反驳言语行为 赵华敏 (521)

间接言语行为的日汉对比研究 赵刚 (540)

语用学“face”与中日两语言中的“面子”概念辨 毋育新 (560)

日语鳗鱼句的语用分类及其语境依存度 陈访泽 严觅知 (576)

現代中国語における<変化>事象の捉えかたと構文特徴

——<断続的变化>と<連続的变化>—— 古川裕 (586)

语料库语言学研究

基于日语教学目的的语料库研究 曹大峰 (609)

试论语料库调查和问卷调查在语法研究上的异同——以日语

- 复合助动词「～てならない」、「～てたまらない」、
「～てしかたがない」为例 杉村泰 (627)
- 对「ながら」主从句主语间的语义关系及从句谓语句动词
类别的考察
- 基于语料库的实证研究 朱鹏霄 (641)

教学、翻译研究

- 日语教材评价方法论
- 以开放型评价为中心 陈俊森 (652)
- 语音学实验研究手段及其成果在日语教学中的应用 朱春跃 (670)
- 略论文体的翻译教学与研究 高宁 (685)
- 日汉翻译中时间的认知与表达
- 从教学实践谈起 续三义 (702)
- 《日语研究》1—10辑论文目录 (722)

カテゴリー的多義の比較

宮島達夫 (京都橘女子大学)

提要 两个以上的词汇意义的核心部分相同，而与语法有关的意义不同的多义词叫作“范畴多义词”。既是自动词，又是他动词；既表示人，又表示动作，这样的词就是范畴多义词。本文举例说明日汉两种语言的范畴多义现象存在着差异，还指出“酒がすきだ”和“喜欢喝酒”这种表达倾向上的差异。

キーワード カテゴリーの意味 多義語 日中対訳コーパス 感情の
対象 学習の対象

1. 「カテゴリー的多義」とは

単語の意味には、その文法現象をささえるようなカテゴリー的側面がある。たとえば、「戸があく」と「戸をあける」とでは、自動性と他動性、つまり、対象にある変化がおこるか、そのような変化をひきおこすように対象に働きかけるか、という点に決定的な対立がある。自動詞と他動詞のちがいを「を」格の名詞をとるかという点にもとめるならば、それ自体は文法形式の問題だが、そのような文法的性質をささえる意味の側面があるはずであり、これをカテゴリー的とよぶことができるだろう。

意味のどのような要素をカテゴリー的とよぶかの判断はむずかしいが、われわれが問題にしているのは論理学ではなく言語学なのだから、なん

らかの点で言語形式に反映していることが条件になる。「荷物を棚にあげる」は空間的な移動で、「～に」という帰着点を取り、「例をあげる」は表現活動でこれをとらない。このようなばあいには「あげる」のカテゴリー的な意味がちがう、といえるだろう。言語形式としては、このような文法形式以外にも、どのようなグループの単語とむすびつくか、という連語的な条件も考えるべきである。ただ、いまのところ、わたしにはこの問題をひろく考察して一般的な結論をだす用意はない。

ところで、あるばあいには、おなじ単語のなかに2つ以上のカテゴリーが共存していることがある。「戸がひらく」と「戸をひらく」とをみると、おなじ動詞が自動詞としても他動詞としても、つかわれている。つまり、この動詞はカテゴリー的に多義なのである。ただし、ここでは「カテゴリー的多義」ということばを単にカテゴリー的な意味を複数もっているというだけでなく、それ以外の語彙の意味がほぼ共通であるもの限定してつかう。上の例でいえば、「あげる」は2つの語彙の意味が全面的にちがうので、ここではカテゴリー的多義とはよばない。

2. 調査資料

以下、日本語と中国語のあいだにある〈カテゴリー的多義〉の対応についてのべるが、この調査の資料は、おもに「中日対訳コーパス(試用版)」による。これは北京日本学研究中心で曹大峰氏を中心として作成中のものであり、まだ完成品ではないが、わたしも、その研究協力者として利用がみとめられている。つぎに、作品と訳者の名まえをあげる。ただし、いくつかの作品については、複数の中国語訳がコーパスに収録されており、原則として、最初にあげられた、以下の訳者のものをつかったが、第2・第3の訳をも利用したばあいがある。また、参考のために英語の訳文も引用した箇所があるが、これらはコーパスにふくまれているのではなく、別にさがしたものである。

安部公房『砂の女』(楊応辰訳, E. D. Saunders 訳)

- 石川達三『青春の蹉跌』（金中訳）
- 泉鏡花『高野聖』（文潔若訳, Ch. S. Inouye 訳）
- 井上靖『あした来る人』（林少華訳）
- 井伏鱒二『黒い雨』（柯毅文等訳, J. Bester 訳）
- 大江健三郎『飼育』（沈国威訳, J. Nathan 訳）
- 乙武洋匡『五体不満足』（鄧顯訳）
- 川端康成『雪国』（葉渭渠訳, G. Seidensticker 訳）
- 島崎藤村『破戒』（柯毅文訳, K. Strong 訳）
- 太宰治『斜陽』（張家林訳, D. Keene 訳）
- 谷崎潤一郎『痴人の愛』（郭来舜等訳, A. H. Chambers 訳）
- 夏目漱石『こころ』（周大勇訳, E. McCellari 訳）
- 夏目漱石『坊っちゃん』（劉振羸訳, U. Sasaki 訳）
- 平川祐弘『マッテオ・リッチ伝』（徐一平等訳）
- 水上勉『越前竹人形』（呉樹文訳）
- 武者小路実篤『友情』（馮朝陽訳, R. Matsumoto 訳）
- 村上春樹『ノルウェーの森』（林少華訳, A. Birnbaum 訳）
- 朝日/人民日報『日中飛鴻』
- 阿城『棋王』（立間祥介訳）
- 王蒙『応報』（林芳訳）
- 浩然『輝ける道』（神崎勇夫訳）
- 謝冰心『女の人について』（竹内実訳）
- 莫言『赤い高粱』（井口晃訳）
- 茅盾『霜葉紅似二月花』（立間祥介訳）
- 楊沫『青春の歌』（島田・三好訳）
- 劉心武『鐘鼓楼』（蘇琦訳）
- 老舍『駱駝祥子』（立間祥介訳）

このコーパス以外に使った資料としては、
黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』（朱曉蘭訳, D. Britton 訳）がある。

通にみられるものがある。たとえば、ある団体・組織は同時に建物であり、場所であることがおおい。

「会社（銀行・警察）が～を決定した」というとき、それは、主体的に行動ができる人の団体・組織である。

○どこの学校へはいるう / 进什么学校为好 / Which school was the best for me. (『坊っちゃん』)

という例は、学校という組織の1員になる、ということである。ところが、おなじ「学校へはいる」という表現でも、子どもが学校のグラウンドへ遊びにはいるときには、それは空間である。「会社（銀行・警察）へはいる」でも、おなじである。

○落ちた奴を拾ってきて、学校で食う / 捡落在地上的栗子带到学校里吃 / Gather the brown nuts on the ground ; these I would take to school to eat. (『坊っちゃん』)

は、空間としての「学校」の例である。また、

○学校の二階から飛び降りて / 从学校的楼上跳下来 / I jumped down from the second story of the schoolhouse. (『坊っちゃん』)

は、建物としての学校である。「会社（銀行・警察）がやけた」も建物である。

ここまででは日本語の「学校」と中国語の「学校」とが平行している。ところが、日本語の「学校」には〈学校〉のする行動としての授業をあらわす用法がある。

○学校は八時に始まる事が多い / 学校大多是八点上课 / Many of our morning lectures began at eight. (『こころ』)

このばあいは毎日の仕事としての授業だが、つぎの例は休み明けの新学期を意味する。

○その内学校がまた始まりました / 不久、学校又开学 / Our holidays were at last over. (『こころ』)

この「学校」は

○学校の授業が始まるにはまだ大分日数があるので / 学校开学还有许多日子 / There were many days left before the beginning of terms. (『こころ』)

の「学校の授業」とおなじものである。

どちらの意味でも、授業としての「学校」は中国語に直訳しにくく、「比赛八点开始（試合は8時にはじまる）」とはいっても、「学校八点开始」だけではおちつかず、「上课」があった方がいいらしい。英語では、上の訳は lectures についでいるが、“School began at eight o'clock (in September)”と直訳できるから、日本語同様、動作の意味があるわけである。

なお、「学校が始まる・学校を始める」には、授業ではなく組織としての「学校」を意味する例もある。

○このトモエ学園を始める前に、何年も何年も研究し、完全なものとして学校を始めたのが、昭和12年/在创办该校之前，经过多少的探索。实际开学是在1937年/It took Mr. Kobayashi years and years of study before starting Tomoe in 1937.（『窓ぎわのトットちゃん』）

5. カテゴリー的多義の言語差：(2) 個人と組織「～屋」

言語によってカテゴリー的多義のありかたがちがう例として、接尾辞「屋」をとりあげてみよう。

○古本屋に売るさ/卖给旧书店嘛/You can sell them to some secondhand bookshop.（『ころも』）

の「古本屋」は売買という主体的な行為をする、経営の組織をあらわす。しかし、その組織は店という建物を持ち、したがって空間的な場所というカテゴリー的意味の側面がつよくでる例もある。

○本屋へ行って本をさがすのが好きだった/喜欢到书店去翻书/Browsing among the book-stores was his special pastime.（『友情』）

○古本屋を出て…歩いた/从旧书店出来，他一边走/As he left the bookshop and walked down（『破戒』）

○射的場や、土産物屋にくりこんでゆく/向射击场和土产商店涌去（『越前竹人形』）

○雑貨屋の奥に、棚ざらしになっていた/在储藏室的深处，她找出些